

食品メーカーにおける SCM領域でのクラウド活用

株式会社ラック
IT戦略アドバイザー

喜多羅 滋夫

自己紹介

喜多羅 滋夫（きたらしげお）

株式会社ラック IT戦略アドバイザー

（元）日清食品ホールディングス 執行役員・CIO



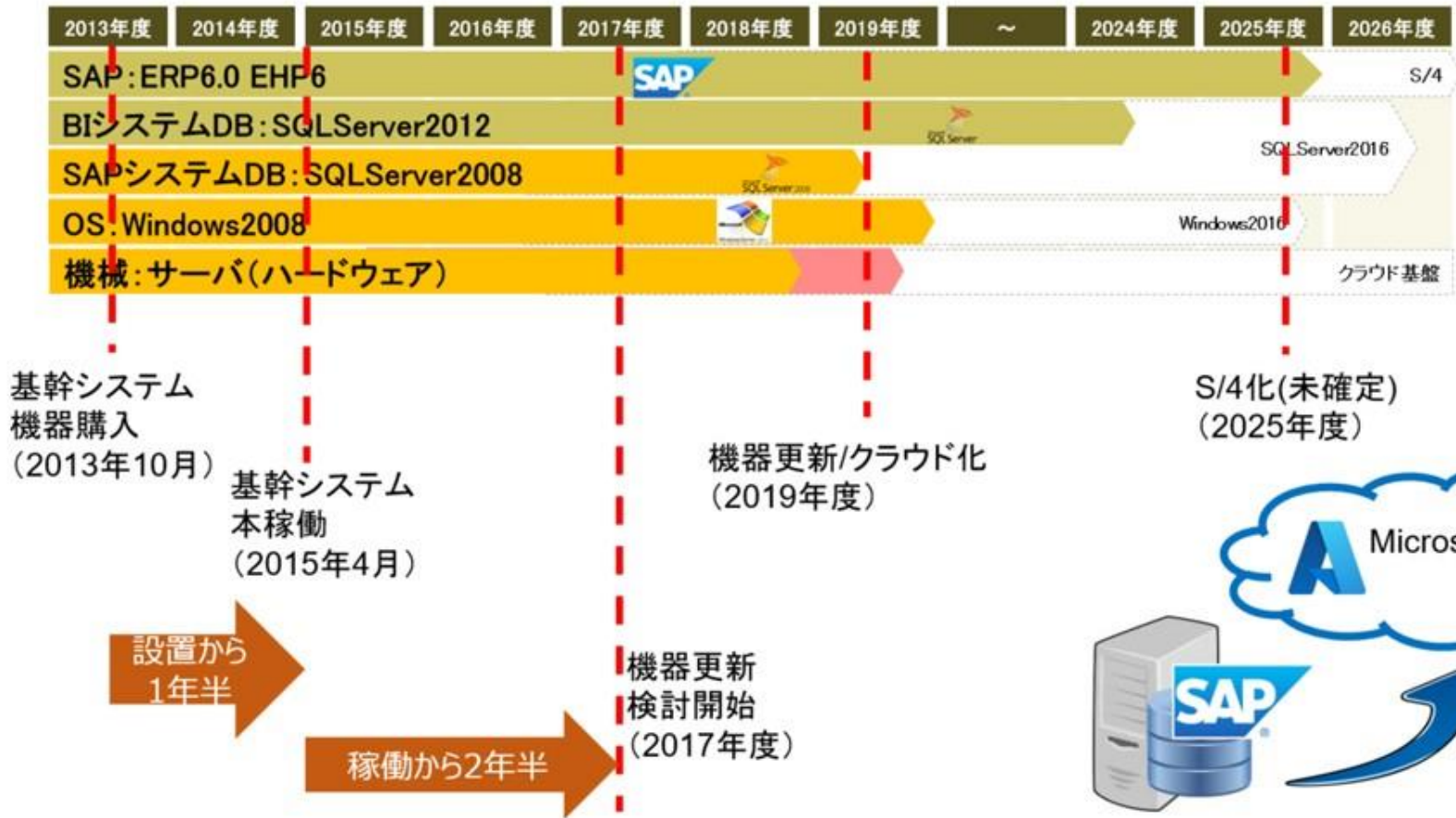
プロフィール

P&G、フィリップモリスにおいて、ITを活用した事業課題の解決や、多国籍IT部門の運営に従事。

2013年から2021年まで、日清食品グループのCIO（最高情報責任者）として、システムのグローバル化とITを活用した働き方改革に携わる。
2018年 経済産業大臣賞受賞、2020年 DX銘柄選定。



基幹システム基盤刷新のきっかけ



(日清食品HD公開資料より)

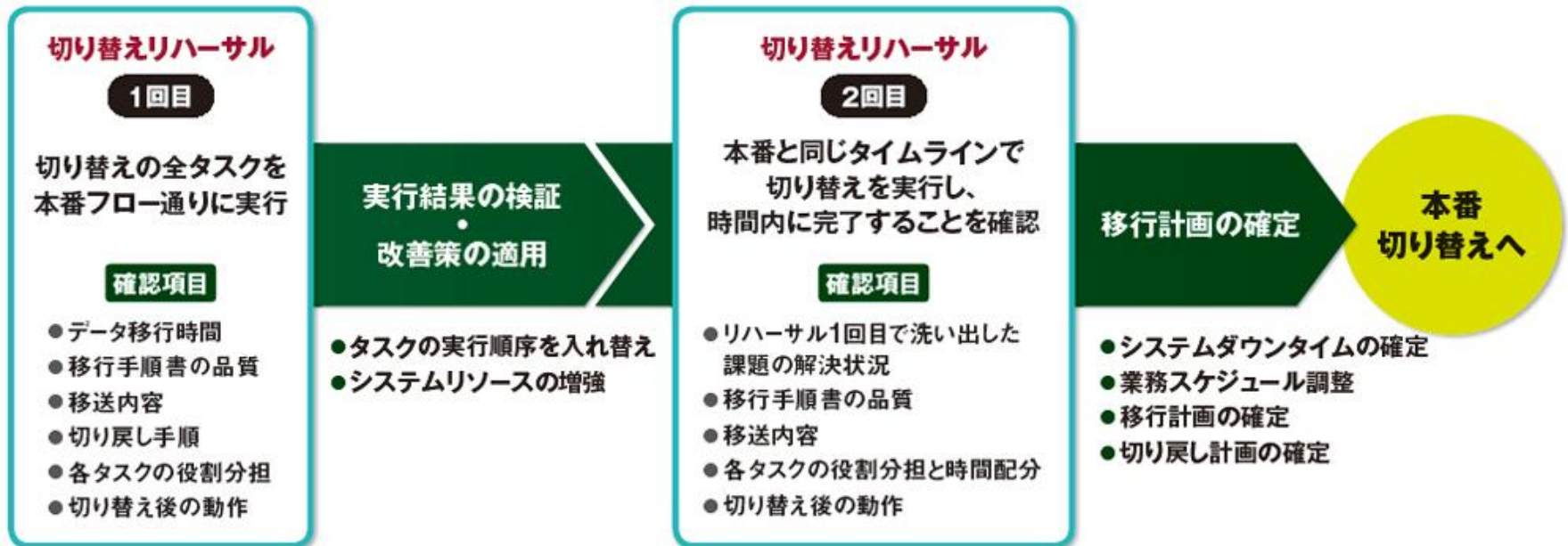
事業課題

- EoS対応（事業継続）
- BIレスポンス低下とサービスダウン（夜間バッチ問題）
- 長いBCP復旧目標（48時間）
- 使われていない帳票群・インターフェースの整理

プロジェクトスケジュール

2017年11月～2018年10月	グランドデザイン策定 <ul style="list-style-type: none">- 方針策定- AWS/Azureの評価と決定- 予算決裁
2018年11月～2019年1月	要件定義フェーズ <ul style="list-style-type: none">- プロジェクト計画書策定- インフラ・バックアップ設計
2019年2月～4月	開発フェーズ
2019年5月～7月	テストフェーズ <ul style="list-style-type: none">- 第1回移行リハーサル
2019年8月～10月	移行フェーズ <ul style="list-style-type: none">- 第2回移行リハーサル- 本番移行（9月）

入念なリハーサル



クラウド移行のメリット

- ハードウェア保守のリスクから逃れた
- 夜間バッチトラブルの回避
- BCP時のリカバリータイムの改善（48時間超→8時間）

システム簡素化（BI）後

SAP基盤クラウド化に伴い、BIを簡素化
レポートを6割削減し、サービスの可用性を高める

簡素化が、BIのサービスの安定化に貢献しています。

（お問い合わせ：平均13件/月 → 0件/月）

SAPデータを活用したサプライチェーン最適化

データ分析におけるAWS Redshiftの活用（2019～）

背景

- サプライチェーン清流化によるロス削減
- BIにおけるパフォーマンス問題

施策

- Redshiftでデータ処理→PowerBIで分析
- 部門間調整のためのKPIレポート
 - 営業部門会議向け(支店など)
 - サプライチェーン需給調整会議向け(単品別)
 - 営業向けPOS分析ツール



まとめ

クラウド移行により

サービスレベル向上とコストの低減ができました。

安定的にサービスを提供
できる環境

SAP稼働率
100%

BI稼働率
99.9%

夜間処理時間
短縮

災害時も安心な
常に同期された環境

DR所要時間
5h

体制の冗長化

手順の簡素化

運用業務に必要な
負担が低減された環境

自由な
スケーラビリティ

運用保守工数
-1,600h/年

ランニングコスト
-6百万円/年

(日清食品HD公開資料より)

アプリケーション・DBをクラウド利用するメリット

- スケールの自由度（リードタイム&コスト）
- テスト環境・サンドボックスの弾力的運用によるコスト削減
- 新しいテクノロジー（Redshiftなど）によるパフォーマンス改善
- ソリューション内製化による業務への対応速度向上